



# 平成27年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成27年1月29日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社ハマキョウレックス  
 コード番号 9037 URL <http://www.hamakyorex.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 大須賀 秀徳

問合せ先責任者 (役職名) 取締役執行役員管理部長 (氏名) 内山 宏

TEL 053-444-0054

四半期報告書提出予定日 平成27年2月13日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

## 1. 平成27年3月期第3四半期の連結業績(平成26年4月1日～平成26年12月31日)

### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
27年3月期第3四半期	69,621	0.4	5,325	12.8	5,601	14.8	3,125	28.9
26年3月期第3四半期	69,372	2.0	4,720	△7.7	4,878	△6.3	2,425	△9.0

(注) 包括利益 27年3月期第3四半期 3,732百万円 (30.9%) 26年3月期第3四半期 2,851百万円 (△6.5%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
27年3月期第3四半期	374.16	—
26年3月期第3四半期	290.34	—

### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
27年3月期第3四半期	93,887	37,210	34.4
26年3月期	89,164	33,962	33.0

(参考) 自己資本 27年3月期第3四半期 32,320百万円 26年3月期 29,412百万円

## 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
26年3月期	—	21.00	—	21.00	42.00
27年3月期	—	22.00	—	—	—
27年3月期(予想)	—	—	—	22.00	44.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

## 3. 平成27年3月期の連結業績予想(平成26年4月1日～平成27年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	92,000	0.0	6,500	9.9	6,600	7.8	3,400	10.9	407.03

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無  
新規 一社 (社名) 、 除外 一社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
  - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
  - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
  - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	27年3月期3Q	8,356,000 株	26年3月期	8,356,000 株
② 期末自己株式数	27年3月期3Q	3,093 株	26年3月期	2,891 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	27年3月期3Q	8,352,976 株	26年3月期3Q	8,353,163 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、四半期連結財務諸表に対する四半期レビュー手続が実施中です。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料2ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	2
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項 .....	2
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 .....	2
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 .....	2
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示 .....	3
3. 継続企業の前提に関する重要事象等 .....	3
4. 四半期連結財務諸表 .....	4
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	4
(2) 四半期連結損益及び包括利益計算書 .....	5
第3四半期連結累計期間 .....	5
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	7
(継続企業の前提に関する注記) .....	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	7
(セグメント情報等) .....	7

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、消費税増税や為替の影響等により、国内景気の持直しの動きは勢いを欠く状況となっております。

当業界におきましても、世界経済の減速懸念などを背景とした原油安により燃料の価格が下がってきているものの、個人消費低迷による物量の減少や人手不足の影響等により、経営環境は引続き厳しい状況が続いております。

こうした中、当企業グループの当第3四半期連結累計期間は、営業収益696億21百万円(前年同期比0.4%増)、営業利益53億25百万円(同12.8%増)、経常利益56億1百万円(同14.8%増)、四半期純利益31億25百万円(同28.9%増)となりました。

各セグメント別の営業状況は、次のとおりであります。

#### (物流センター事業)

当第3四半期連結累計期間の営業収益は、332億74百万円(前年同期比0.1%減)、営業利益は、37億86百万円(同15.1%増)となりました。

減収の主な要因につきましては、物流センター運営の充実と前連結会計年度に新規稼働したセンターが順次業績に寄与したものの、既存荷主の物量が減少したこと等によるものであります。増益の主な要因につきましては、前連結会計年度に当社において行った組織体制の見直し、支社制度の導入、毎週定例的な部長会の実施により、今まで以上に管理や運営等の意思決定が迅速になり、業務効率化が進んだことによるものであります。

新規受託の概況におきましては、10社の物流を受託しております。また稼働状況におきましては、前期受託した2社を含めた12社のうち10社が稼働しております。残りの2社は平成27年1月以降の稼働を目指し準備を進めてまいります。物流センターの総数は、78センターとなりました。

引続き日々収支、全員参加、コミュニケーションを徹底して行い、収支改善に向け取組んでまいります。

#### (貨物自動車運送事業)

当第3四半期連結累計期間の営業収益は、363億46百万円(前年同期比0.8%増)、営業利益15億35百万円(同7.5%増)となりました。

営業収益につきましては、前年同期比2億94百万円増加致しました。近物レックス㈱での運賃単価の料金交渉や新規業務の獲得等によるものであります。

営業利益につきましては、前年同期比1億7百万円増加致しました。燃料単価は、下落傾向にありますが、期初の原油価格高騰の影響により燃料費は前年同期比45百万円増加致しました。しかしながら、料金交渉等による営業収益の増加により、営業利益は増加しております。

今後の取組みと致しましては、運賃単価の料金交渉を継続するとともに、基本の徹底と日々の管理を徹底し、収入の拡大と利益の確保に努めてまいります。

### (2) 財政状態に関する説明

当企業グループの当第3四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末比47億22百万円増加し、938億87百万円となりました。これは主に、現金及び預金と受取手形及び売掛金の増加により流動資産が27億55百万円増加したことと、設備投資等により固定資産が19億66百万円増加したことによるものであります。

負債につきましては、前連結会計年度末比14億74百万円増加し、566億76百万円となりました。これは主に、支払手形及び買掛金とその他流動負債の増加により流動負債が15億96百万円増加したことによるものであります。

純資産につきましては、前連結会計年度末比32億48百万円増加し、372億10百万円となりました。これは主に、四半期純利益31億25百万円の計上と剰余金の配当による減少3億59百万円によるものであります。この結果、自己資本比率は、前連結会計年度末の33.0%から34.4%へと増加しております。

### (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成27年3月期の業績見通しといたしましては、連結営業収益920億円(前年同期比0.0%増)、連結営業利益65億円(同9.9%増)、連結経常利益は66億円(同7.8%増)、連結当期純利益は34億円(同10.9%増)を見込んでおります。

通期見通しにおける軽油単価につきましては、最近の情勢をもとに計算しております。なお、軽油単価の変動による影響につきましては、1リットル当たりの単価1円の変動により、年間32百万円の影響となります。また借入金の変動による影響につきましては、金利0.1%の変動により年間19百万円の影響となります。

## 2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

### (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

### (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計方針の変更

(退職給付に関する会計基準等の適用)

「退職給付に関する会計基準」(企業会計基準第26号 平成24年5月17日。以下「退職給付会計基準」という。)及び「退職給付に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第25号 平成24年5月17日。以下「退職給付適用指針」という。)を、退職給付会計基準第35項本文及び退職給付適用指針第67項本文に掲げられた定めについて第1四半期連結会計期間より適用し、退職給付債務及び勤務費用の計算方法を見直し、退職給付見込額の期間帰属方法を期間定額基準から給付算定式基準へ変更、割引率の決定方法を割引率決定の基礎となる債権の期間について従業員の平均残存勤務期間に近似した年数とする方法から退職給付の支払見込期間及び支払見込期間ごとの金額を反映した単一の加重平均割引率を使用する方法へ変更いたしました。

退職給付会計基準等の適用については、退職給付会計基準第37項に定める経過的な取扱いに従って、第1四半期連結会計期間の期首において、退職給付債務及び勤務費用の計算方法の変更に伴う影響額を利益剰余金に加減しております。

この結果、当第3四半期連結累計期間の期首の退職給付に係る負債が21百万円増加し、利益剰余金が7百万円減少しております。また、当第3四半期連結累計期間の営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益に与える影響は軽微であります。

3. 継続企業の前提に関する重要事象等

該当事項はありません。

4. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成26年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	5,349	7,111
受取手形及び売掛金	11,878	13,455
商品	2	2
貯蔵品	114	96
その他	1,991	1,451
貸倒引当金	△27	△51
流動資産合計	19,309	22,065
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	21,957	22,057
土地	34,931	35,501
その他(純額)	6,294	8,245
有形固定資産合計	63,182	65,804
無形固定資産	2,056	1,971
投資その他の資産	4,615	4,046
固定資産合計	69,855	71,822
資産合計	89,164	93,887
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	5,971	6,370
短期借入金	20,040	19,560
未払法人税等	1,087	1,017
賞与引当金	612	436
役員賞与引当金	42	48
その他	4,644	6,561
流動負債合計	32,398	33,994
固定負債		
長期借入金	11,070	10,760
退職給付に係る負債	5,263	5,385
役員退職慰労引当金	460	491
その他	6,009	6,043
固定負債合計	22,804	22,681
負債合計	55,202	56,676
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	4,045	4,045
資本剰余金	3,951	3,951
利益剰余金	21,577	24,336
自己株式	△8	△9
株主資本合計	29,565	32,323
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	106	158
退職給付に係る調整累計額	△259	△161
その他の包括利益累計額合計	△153	△2
少数株主持分	4,550	4,890
純資産合計	33,962	37,210
負債純資産合計	89,164	93,887

(2) 四半期連結損益及び包括利益計算書  
(第3四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年12月31日)
営業収益	69,372	69,621
営業原価	63,096	62,793
営業総利益	6,276	6,827
販売費及び一般管理費		
貸倒引当金繰入額	3	28
役員報酬	310	315
給料及び手当	373	332
賞与引当金繰入額	31	35
役員賞与引当金繰入額	40	42
退職給付費用	21	17
役員退職慰労引当金繰入額	44	46
その他	731	685
販売費及び一般管理費合計	1,555	1,502
営業利益	4,720	5,325
営業外収益		
受取利息	1	1
受取配当金	23	26
負ののれん償却額	152	111
助成金収入	18	15
売電収入	53	175
雑収入	273	325
営業外収益合計	522	654
営業外費用		
支払利息	235	206
売電原価	33	111
雑損失	95	60
営業外費用合計	365	378
経常利益	4,878	5,601
特別利益		
契約解除補償金	50	-
資産除去債務取崩益	11	-
特別利益合計	61	-
特別損失		
固定資産除却損	31	-
減損損失	30	-
賃貸借契約解約損	13	-
投資有価証券評価損	4	14
損害賠償金	51	-
和解金	233	-
契約解除に伴う損失	52	-
特別損失合計	417	14
税金等調整前四半期純利益	4,522	5,586
法人税、住民税及び事業税	1,595	2,029
法人税等調整額	144	5
法人税等合計	1,739	2,034
少数株主損益調整前四半期純利益	2,783	3,552
少数株主利益	357	426
四半期純利益	2,425	3,125
少数株主利益	357	426

(単位:百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	2,783	3,552
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	68	48
退職給付に係る調整額	-	131
その他の包括利益合計	68	180
四半期包括利益	2,851	3,732
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	2,483	3,275
少数株主に係る四半期包括利益	368	457



(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自平成25年4月1日至平成25年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位: 百万円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結損益 及び包括利益計 算書計上額 (注) 2
	物流センター 事業	貨物自動車運送 事業	計		
営業収益					
外部顧客への営業収益	33,320	36,051	69,372	-	69,372
セグメント間の内部売上高 又は振替高	367	991	1,358	△1,358	-
計	33,687	37,042	70,730	△1,358	69,372
セグメント利益	3,290	1,427	4,718	1	4,720

(注) 1. 調整額は、全てセグメント間取引消去によるものであります。

(注) 2. セグメント利益は、四半期連結損益及び包括利益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

「貨物自動車運送事業」セグメントにおいて、資産有効活用のため、近物レックス㈱(連結子会社)の松本支店を松本運送㈱(連結子会社)が所有する施設に移転することが決まり、使用が見込まれない固定資産について、当第2四半期連結会計期間において減損損失を認識いたしました。なお、当該減損損失の計上額は、当第3四半期連結累計期間において30百万円であります。

II 当第3四半期連結累計期間(自平成26年4月1日至平成26年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位: 百万円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結損益 及び包括利益計 算書計上額 (注) 2
	物流センター 事業	貨物自動車運送 事業	計		
営業収益					
外部顧客への営業収益	33,274	36,346	69,621	-	69,621
セグメント間の内部売上高 又は振替高	329	1,215	1,544	△1,544	-
計	33,604	37,561	71,165	△1,544	69,621
セグメント利益	3,786	1,535	5,322	3	5,325

(注) 1. 調整額は、全てセグメント間取引消去によるものであります。

(注) 2. セグメント利益は、四半期連結損益及び包括利益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。